

井戸端だより

第55号

発行日：2006. 9. 27

発行：くらしの学習会



も く じ



7月例会報告	1
9月例会報告	3
いってみたドイツ・ポーランド・チェコ	5
プラ容器包装ゴミ品質のその後	11
寄り道の楽しみ	17
雑感	18
10月例会予定	21



7月例会 最後の今治例会報告

今治在住会員のOさんが年内に松山に引っ越して来る事が決まり、今治例会も最後になるだろうと7月11日（火）会員5人で出かけました。今治でOさんと合流し市民の森の睡蓮を見に行くことになりました。

「市民の森フラワーパーク」は、一年中四季折々の花が咲き乱れる市民の憩いの場。コンパクトにまとまった園内の入り口付近に、白・黄色・ピンクの睡蓮が群生している池があり、池を渡る橋から眺めることができます。これ程多くの睡蓮の群生は県内でも珍しいのではないのでしょうか。そのせいか、カメラ片手の人がたくさん来ていました。写真を撮っている人に会員のKさんが睡蓮の撮り方を聞いてみると『花と葉と水面に映った花の三点を入れて撮るのが基本』だと教えてくれたそうです。凝り性のKさん、早速実践。ところが、バッテリー切れで撮影ならず、残念がっていました。

ここには「オオオニバス」が植えられています。熱帯で生育している植物なので、冬場温室で保管し、春に専用の池に植え付けるのです。私達が行った時は、まだ直径が30～40cm程度の葉が10枚前後ありましたが、8月下旬～9月には、直径180cmにも育つと記されていました。夜には、香りの強い花が咲くそうです。大きく育った時期に訪れてみたいと思いました。

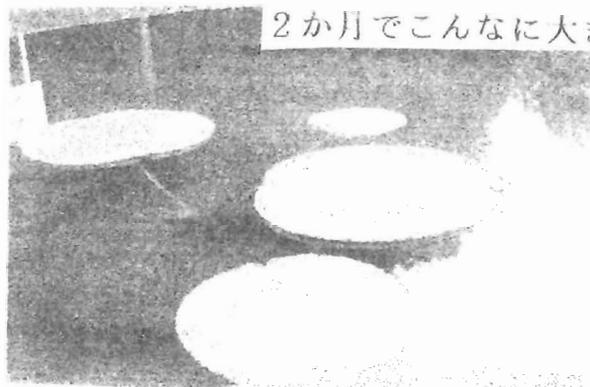
蒸し暑い園内を一時間程散策した後、予約してくれていたレストランへ移動。来島大橋が窓越しに見え、来島海峡を行き来するフェリーや漁船を眺めながら、ゆったりと食事を取りました。海辺に来たのは何年振りだろう。波が打ち寄せる音が心地よく、潮の香りを感じながら、入道雲が見える真夏に訪れたいレストランでした。隣には和食のお店もあるので、家族や友達と来られるといいなあ。

おなかも一杯になったし、運動がてら五十五番札所南光坊へ。市街の中に山門もなく境内に木々もない寺で、他の霊場とはやや違う雰囲気。コンクリート造りの本堂や対面して立つ太子堂は堂々としている。堂宇もかつて戦火で焼失したため少ない（JTBのガイドブックより）隣接地には、大山祇神社の分館があり、樹齢何百年もの木々が残っていて、吹き渡る風はとても涼しく居心地のよい場所でした。隣り合わせで戦火にさらされた南光坊、さらされなかった大山祇神社の分館。不思議です。ちなみに、この報告は「井戸端便り55号」になります。五十五号つながりと言う事で。

汗もかいた所で、Oさんお気に入りの喫茶店へ。今治の商店街を脇に入った、古民具をインテリアに使い落ち着いたお店。中年男性の店主もおっとりとした接客で、お気に入りになった理由が分かりました。ひとしきりのんびりし、9月の例会を決めて店を出ました。若かりし頃来ていた商店街は、ずいぶん寂しくなってしまった感じがします。（定休日だったらごめんなさい）この辺りは港が近いせいか渡ってくる風は潮の香りがしていました。

Oさんが今治在住になって5年余りでしょうか。その間、4回こちらを訪れています。実家や親戚でもあれば来る事もあるのですが、めったと来ることの無い所をいろいろ案内してもらってとても楽しかったです。松山に引っ越してからも、好奇心旺盛な学習会の皆と一杯楽しい時間が持てるといいですね。 A. M

2か月でこんなに大きくなっていました。



9月例会報告

平成18年9月12日(火) 10:00～ 林さん宅

今回は9月1日の防災の日にちなんで、防災についての話し合いをした。会員が実際に用意している防災グッズを持ち寄って、必要なものを検討したり、非常食の試食をしてみた。(写真参照)

会員から出た防災アイデア

- ・ たんすと天井との間のすきまを、ダンボールの箱をつぶした
ものや新聞紙できっちりつめると、たんすが倒れにくくなる。
- ・ 枕元に靴を置いておく。いざという時、まず靴を履く。
- ・ 出口(玄関や窓など)を開けて、逃げ道を確保する。
- ・ 非常持ち出し袋に入れておくといいいもの
水を入れられる丈夫なビニール袋
マスク
ウェットティッシュ(傷もふけるものがよい)
新聞紙(服に入れて防寒にもなる)
ラップ(紙皿にしいて用いる)
女性は生理用品
手で回すと充電できるタイプのラジオや懐中電灯
- ・ 非常食を試食してみて、現在は結構味もよく食べやすい食品
が増えていることがわかったが、お年寄りにはカンパンは硬
すぎるので他のものを用意するとよい。(実際食べてみて、と
ても硬いものがあった)
- ・ しょうゆの小さいパックなども入れておくと味をつけるのに
いいのではないか。

- ・ 乾物の海藻類があると、水で戻せるし、ミネラル分もとれる。
- ・ 防災品は一年のうち日を決めて点検するとよい。ある会員は、ご自分の誕生日に点検し、非常食も食べるようにしているとのこと。こうすれば、うっかりと賞味期限切れになることもない。
- ・ 小さい子供さんがいるご家庭などは、子供用の衣類は、少し大きめを用意しておく。

以上、話し合いを通じていろいろな意見がでてよかった。今後の生活にいかしていきたい。 (E.K)



行ってみたドイツ・ポーランド・チェコ

「行ってみた」シリーズも、回を重ねてきたが、今夏は、ドイツ・ベルリンを皮切りに、東欧にも足を踏み入れてみた。今回のサブタイトルは「トラブルから学ぶ海外旅行」だろうか。今回は色々予期せぬ問題が生じたが、そのことによって分かったことも多いので、案外ラッキーだったのかもしれない。いつもプラス思考で行きたいものだ。

前置きはさておき、今年は私の関係する学会がベルリンで行われた。1泊ホテル付きという安い航空券を捜してもらい、準備を整えた。何とそれが、テロ未遂のあったロンドンヒースロー空港経由だったので、本当に出かけられるのか心配した。8月24日成田を発つ時は、ちょっと前の警戒レベルが高い時期(貴重品をビニール袋に入れ持ち込めるだけ)に比べると若干緩くなって(機内持ち込み荷物はハンドバッグを含めて規定の大きさ以内の1つだけ。但し液体、ジェル状のものの持ち込み不可)いたので、問題なくロンドンヒースローへ。しかし、乗り換えて出国する乗客には更に厳しいチェックが待ちかまえていた。長蛇の列を並んで、靴も脱ぎすべての持ち物チェックを受けるのだ。私の場合、乗り換えの飛行機の待ち時間が1時間余りで、出発ゲートが開まるのがその25分前、何とか早くチェックしてもらおう道を探ったが無駄だった。チェックが終わったときは本来ならゲートが開まった頃だったが、運のいいことにベルリン行きの飛行機が大幅に遅れたため、何のことはない幸々セーフだった。

学会期間中は、ホテルと会場である日独センターをUバーンと言う地下鉄を使って通った。ドイツの地下鉄は、距離によって値段が違う。少し郊外エリアを含む券で2.1ユーロ(300円ぐらい)、乗る前に必ず機械で打刺ししなければならないが、改札口もなく降りるときも全くチェックを受けないので、人の良心に任されていると言える。まさに大人の世界だと思った。

学会最終日は、ドイツ日本大使館、日独センター主催のシャンペーパーティーがあった。日本語関係の学会ならではだろうか。この日は夜9時48分発の寝台列車に乗ってワルシャワへ行く予定だった。それまでかなり時間があって、ホテルに戻って近くのレストランで夕食を取り、ホテルのレストランでデザートとコーヒーを注文して、9時に頼んであったタクシーを待っていた。+分時間があつたはずなのに、頼んだものがいくら待っても出てこない。結局頼んだものをキャンセルして慌ててタクシーに乗り込み、切符手配を頼んだ旅行会社の指示通りベルリン中央駅へ。

ベルリンには現在大きな駅として、旧東ドイツの中央駅であるベルリンオスト駅、西ベルリンの大きい駅ツォー駅、そしてワールドカップの為に作ったベルリン中央駅の3つある。

9時20分中央駅に着いた私と友人は、先ず案内所で切符を見せて、どこから出るか尋ねた。すぐ2階のプラットフォームを教えてくれた。しかし駅の表示を見て同じ時刻出発の列車にワルシャワ行きが表示されないので不安に思ってもう一度別の案内所へ行って聞いたところ、この夜行寝台列車はこの駅からではなく、別の駅(オスト駅でもツォー駅でもなく、ガイドブックにも載っていない駅)からだという。行くのに20分以上かかるという。時既に遅し。その駅に連絡を取ってくれるよう頼んだが、それはできないと言われどうすることもできず、せめてキャンセルだけでもと思ったが、それもその出発駅でなければできないと言われる。そんな馬鹿な！旅行会社の緊急連絡先に電話するも、土曜日の夜ということでは誰も出てくれない。

しかたなく、次にワルシャワへ行く列車(朝6時42分中央駅発)の切符を買い、次の朝5時35分ワルシャワ駅まで迎えに来てくれるはずになっていた私の教え子に何とか連絡をとって事情を話し、最後に次の朝が早朝出発であることを考え駅の近くにホテルをとろうと電話をかけるも、満室か馬鹿高いかで困り果ててしまった。結局駅の警察署に入って事情を説明したところ、その警察官がホテルを探してくれることになり、親切にいろいろなホテルに電話を掛けてくれて、最終的に便利な所にあるお値打ちホテルを見つけ紹介してくれた。ホテルに入って寝たのは1時過ぎだった。翌日は5時過ぎにホテルを出て中央駅へ。今度は無事ワルシャワ行きの列車に乗れた。

しかし、禁煙と喫煙のコンパートメントがあるのに何も聞かれなかったのも、ただ行き先を言って買った切符は喫煙室。同室の人がヘビースモーカーで閉口した。控れにきた車掌に禁煙室にかわりたい旨申し出たら、空いている部屋に連れて行ってくれた。このままワルシャワへ行けるかと思ったら、途中の駅からその席の人が乗り込んで来て、再び側の喫煙室に戻らざるをえなくなり、その後はタバコの煙の拷問に耐えた。

ドイツとポーランドの国境では、両方の役人が乗り込んで来て、パスポートを調べ、出国と入国の判をそれぞれ押してくれた。簡単なものだ。車窓から眺める景色は、どこまで行っても変わらない。ヨーロッパ広げば厚げとはよく言ったものだ。起伏のない土地に細や牧草地、ぼつねぼつねと見える民家。どちらの国の側も、田舎の景色は変わらない。夜行なら見られない景色を堪能できたのは寧ろラッキーだったのかも知れない。

昼12時25分、無事ワルシャワ中央駅にたどり着いた。教え子(出会い塾ポーランド編の講師)とその友達がプラットホームで待ち受けていてくれた。色々あっただけに、会えたときは感激だった。

早速大きいトランクを駅のコインロッカーに入れて身軽になって、いざ観光へ。中央駅の隣には社会主義時代にソ連から贈られた文化科学宮殿がどんと構えていた。今年2

月の出会い塾で聞いた、ポーランド人が周りを建物で覆い隠したいと思っているそのものだということを知り出した。4トで、ワルシャワの主な観光地を歩いて回る。美しい街並み、古い物と新しい物がうまく調和している。ショパン博物館では、ショパンの使っていたピアノや、自筆の楽譜、手紙の展示を見る。ワルシャワ大学の構内にも入ってみる。聖十字架教会の柱には、フランスで亡くなったショパンの心臓だけ持ち帰り収めてあるとか。

お昼を過ぎていたので、ポーランド人の好むというホットドッグ用のパンにうズベリージャムのたっぷり入ったものを頼張り二人の室内で食欲に見て回った。旧王宮、円形の壁のバルバカン、旧市街市場広場の人魚の像、ほとんどすべてが戦争で破壊され、第2次大戦後復元したものとこと(世界遺産)。

ノーベル文学賞を受賞したシェンキエヴィッチは、ポーランドの国家的英雄で銅像がたぐさある。二度のノーベル賞受賞者キューリー夫人もこの人だ。

旧市街地に集まっている郷土料理の店に入り、二人のお薦めの赤と白のポルシチ、ポーランド風ギョーザピエロギ三種(中身は、キャベツとマッシュルーム・チーズ・キャベツと肉)などを食べた。どれもおいしかった。

7時間遅れのワルシャワ着になったため、急ぎ足での観光になってしまったが、彼らのお陰で空室した時間が過ごせた。出会い塾で習った、ポーランド語「ジェクエン」(ありがとう)はよく聞いたし、私も使ってみたいし。急いでいたため、帰りはタクシーで駅まで行ったが、そこで面白いエピソードを。ポーランドは基本的にはチップは要らないが、特別なことをしてもらった時、頑張ってもらった時は感謝の意を込めて、チップを渡すのだそう。その運転手はそれに値するのだそうで、チップをはずむことになった。

6時5分発の旧都クラクフ行きの列車に乗るため、ロッカーに入れてあったトランクを出す。ポーランドのロッカーは2ズウォッチ(約80円)入れてロッカーを開けると、そのロッカーの暗証番号を書いた紙が出てくる。出す時はその暗証番号を押して、時間オーバーの場合は不足分を入れれば開くようになっている。もし、彼らがいなかったらロッカー一つ利用できなかったことだろう。

列車に乗って夜8時54分クラクフに着いた。直ぐタクシーでホテルへ。

翌朝は、午前も午後も現地ツアーを申し込んでいた。午前中はクラクフ市内観光。クラクフは、旧首都でワルシャワと違って戦争で破壊されることなく中世の建物がそのまま残っている。すべて世界遺産だという。ヴァヴェル城の中には、広々とした中庭の旧王宮、タペストリーが飾られている大聖堂、地下には歴代の王などの墓がある。そこから少し離れて、コダヤム居住区-ここにはコダヤ教会(シナゴグ)が点在している。個人の家の教会を見学した。祭壇の王冠は、雷の象徴ではなく雷さの象徴だとか。白いレースのカーテン

ここで男性と女性の礼拝の場所が仕切られている。教会の近くに映画「シンドラーズリスト」のロケで使われた街並みがあった。中央市場広場の中央にある織物会館の1階は50店以上のおみやげ物屋が軒を連ねていて、活気がある。ここの名産は琥珀の細工物、木彫りの飾り、民族衣装などだ。

午後は、松山に留学中の教え子に是非行った方がいいと勧められたヴェリチカ塩坑へ。700年以上の歴史を誇る地底岩塩採掘坑で世界遺産。すべて塩で作った礼拝堂や彫刻、塩の結晶で作ったシャンデリアは見事。

クワコフ2日目は、念願のアウシュビッツへ。クワコフからバスで1時間半、雨と強風の中、強制収容所へ。靴の山、義足の山、トランクの山、そして番傘チクロンの空き缶の山、髪の毛からは毛布が作られ、いい靴や価値のある物はすべてドイツへ運ばれたとか。遺体の金歯からは金塊が作られたという。銃殺が行われた死の壁、有刺鉄線を張り巡らされたフェンス、絞首刑の柱、番ガス室、すべてが重く未だに生々しい。少し離れたビルケナウ収容所にも行く。鉄道の引き込み線や中央衛兵所の塔、バラックの囚人棟、その中には3階建ての板だけのベッド、あるバラックには、コンクリートにずらいとれい穴が並んでいるものがあった。トイレだそう。時間を決めて一斉に用を足させたのだそうで、そこにはプライバシーなどというものはみじんも存在しない。ショックな光景の連続だった。負の遺産として永遠に語り継がなければならないだろう。

夕方5時クワコフを発って、再びワルシャワへ。

次の日は、朝早く起きて日本に電話をかけるため、テレホンカードをキオスクで買う。ホテルの電話から、カードで旅行会社に電話し、例の寝台列車代の件で、払い戻しを要求する。駅で下車証明をとるように言われる。その日は現地ツアーに参加。前回行けなかったワジェンキ公園でショパンの像を見、水の宮殿ワジェンキ宮殿を巡り、最後に聖ヨハネ教会のパイプオルガンコンサートを聴く。素晴らしい演奏だった。その日は午後4時25分の列車で再びベリチンへ。再度国境をまたぐ。今回は6人用禁煙室を2人で占領できた。

10時半頃ベリチンオスト駅へ。タクシーに直ぐ乗ろうとしたが、乗車拒否に合う。恐らく英語が話せない運転手だったのだろう。次のタクシーに乗って、日本からのツアーに便乗するために、集合場所であるかなり郊外にあるホテルへ急ぐ。日本から団体で来る場合は、どんな郊外のホテルであろうと一緒に行動するから問題はないだろうが、現地で合流するものにとって、駅からの距離は大きい。タクシーの運転手がこんな所まで来たのは2回目だと言っていたのが印象的だった。ただホテルは立派。それに、それまでどこでもお目にかからなかったバスタブ付きの部屋だったのには、なるほどと思った。

日本人の添乗員がいるツアーは本当に楽だ。日本人ばかりのツアーだから、ガイドも日本語が流暢なドイツ人がしてくれる。フンボルト大学で日本語を勉強したという女性の豊富な知識に裏付けされたガイド振りに感服した。ペリにも学会の時は観光ができなかったのが、新鮮だった。ペリガモン博物館は東西の壁崩壊直前訪れたことがあるが、今は周りの風景が明るく印象が変わっている。壁の一部が壊されていて、今は、落書きがされている。ブランデンブルグ門は印象深い。歴史的な建物はほとんど旧東ドイツ側に集まっている。

午後はポツダムへ。豪華な外観のツェツィリアエンホーフ宮殿は日本の無条件降伏が決められたポツダム会議の会場で、中には当時の円卓が保存されていた。近くのハンヌーシー(仏語で「憂いのない」)宮殿は、フリードリヒ大王の夏の離宮、果樹を配置した庭園が美しい。

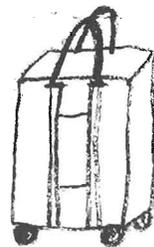
次の日は、早朝ホテルをチェックアウトして朝 7 時に大型バスに乗りマイセンへ。製造過程を実演で見せてくれる。買物タイムもあったが、高くて手が出ない。午後はドレスデンへ。ポーランド王になりたくてプロテスタントからカトリックに改宗したアウグスト王の話は何か悲しい。マイセン製磁気タイルに歴代のザクセン王を描いた 100m 以上にわたって続く君主の行列は、第 2 次大戦の戦災を奇跡的に免れたオジンナヒとか、テレビでも放映された聖母教会は世界中の寄付で修復され、2005 年に完成したばかり。観光客で溢れていた。ツヴィンガー宮殿の絵画のコレクションは素晴らしい。世界に 30 数点しか残っていないと言われるフェルメールの作品が 2 点所蔵されている。ラファエロ、シンドラントなどのコレクションも素晴らしい。その日はバスで、ドイツと、チェコの国境を渡る。パスポートコントロールは、係りの人によって、すぐの場合も、2・3 時間かかる場合もあるので、緊張していたが、役人がバスに乗り込んできて、一瞬ずつパスポートと照合し、その後パスポートを持って建物に入り、ドイツ出国とチェコ入国の判を押してもらって来てくれた。まあ早い方らしい。よかった。その日は、ホテルにたどり着いて一息。

世界で最も美しい都市の一つに数えられているチェコプラハは、戦災を免れ中世の面影をそのままに残す貴重な都市、それ故観光客も多い。プラハ城では衛兵交替を見た。2 本の尖塔の聖ヴィート大聖堂、旧王宮、と歩いて回る。錬金術師が多く住んでいたというかわいい家の並ぶ黄金小路には、かつて作家フランツ・カフカが仕事場としていたという木色の家があった。ウルクヴァ(ドイツ名モルダウ)川にかかる有名なカレル橋は歩行者天国になっていて、30 の聖像が並ぶ。フランシスコ・ザビエルの像もあった。橋塔の下には大洪水だった 2002 年の最高水位が記されていた。対岸から見るプラハ城から続く建物や塔の眺めは素晴らしい。旧市街広場は観光客でにぎわう。旧市庁舎の天文時計はかろう

り時計になっている。お昼は、ピアホールの地下でチェコの伝統料理と有名なビールスナー
ビールをいただく。文句なくおいしい。午後はオブションツアーで世界遺産のクトナー・ホ
ラへ。ベストでなくなった人達の骸骨で作ったピラミッドやシャンデリアのわかる骸骨礼拝
堂は不気味だ。いくつもの尖塔が突き出ている聖バルボラ大聖堂は、貨幣職人のつス
コ画、坑夫の像などが興味深い。しかし何も分からず申し込んだこのツアーは余計だった。
ブラハ市内の観光をもっと充実すべきだった。反省。夕方ホテルへ戻って、これでブラハ
が終わるのは心ざいと、ツアーで一踏だったご夫妻、大学生と地下鉄を使って旧市街へ
繰り出す。ブラハの地下鉄は、有効時間によって料金が違う。券に打刻して、20 分以内
なら 14 コリナ(約 80 円)。地下鉄を降りて、添乗員に教えてもらったピアホールを地図
片手に探す。苦竹の甲斐あっておいしいビールと食事にありつけた。ツアーを途中で離
れる我々にとっては晝復の晩だった。

他の人達は翌早朝、ハンガリーへ向けて出発。私達は、頼んでおいたタクシーでブラ
ハ空港へ。出発 3 時間前についたが、飛行機が遅れ、ロンドンに着いたのは 30 分遅れ。
その結果、帰りは行きよりも待ち時間が短くない大変なことに。保りの人に切符を見せて、
乗り換え客の初めの長い行列は免れたが、チェックが更にあり、2 回目の行列は、皆同じ
状況の下並ばざるを得なくて、結局成田行きの飛行機のゲートへは走って向かう。大変
だった。しかし、同じような人が更に遅れてきたため、出発は遅れ、そのため管制塔の OK
がなかなか下りず 1 時間遅れて出発。成田へも遅れて着いた。終わりの方に積んだはず
なので早く出てくだろうと思っていたトランクは、待つでも待つでも出てこない。結局出で
こず、窓口で手続きをとる羽目に。晝復までトランクは持ち続けた。

荷物は到着後自宅まで送ってくれるとのこと。ロンドン経由はこのところこの手の問題が
多いらしい。無事着くことを祈り、それでもトランクから解放され身軽で羽田へ向かった。
拓山行きの飛行機は定刻だった。トランクがないので、タクシーで帰る予定を変更してバ
スと電車で帰ることができた。トランクは無料宅急便だ。お土産の届くのが遅くなることは
あっても寧ろこれラッキーだったのかも知れない。もちろん 2 日後に無事トランクが着い
たからこぞ言えることではあるが。今回の旅は晝復の晝復まで色々な怪談をさせてくれる
旅だった。帰国後の旅行会社との交渉で、不乗車証明は取れていなかったなので照会に
時間がかかったが、寝台列車の料金とホテル代を払ってくれることになり、終わりよければ
すべてよしとなった。まさに印象に残る旅となった。(T・H)



プラ容器包装ごみ品質のその後

井戸端便り54号に掲載した「2005年度プラスチック製容器包装ゴミ品質調査結果、東温市はD判定と最低評価のその後について。

2006年度もD判定を受け改善計画策定を求められています。東温市は市民に対して10月に配布予定の「プラスチックごみの分別表」の回覧物を送付してきました。今までの物より詳しくなっています。

例＊ライター・カミソリ・注射器等 絶対にダメ！危険です！

＊本来はリサイクル対象品ですが、汚れが落ちにくいので中身を使い切ってから「燃やすごみ」で出して下さい！（洗剤で洗い、汚れを落とした物はプラスチックごみで出して下さい）

分別して出したプラスチックごみは、松山容器で選別されています。松山容器は、2006年度もD判定を受けた松山市のプラスチックごみの選別をしています。9月2日の愛媛新聞によると、松山市は容器包装比率をAにするため、中間処理業者による選別徹底の改善要請をした。作業員を4人増員・年内をめどに磁気選別機の導入・ベルトコンベアの速度を落とし選別とあります。東温市が松山市と同じ業者に委託していると言う事はこのシステムに乗って、今後、選別されるのでしょうか？

10月には、分別表と一緒に市指定ごみ袋が配布されます。広報9月号P15に市指定ごみ袋作成業務 5,777,625円の入札結果があります。燃やされてしまうごみ袋代です。この金額、皆さんはどう考えますか？

A. M

ごみ排出時の分別を徹底する。このこと。

2006年9月2日(水) 愛媛X プラ容器包装ごみ 分別徹底盛り込む 松山市が改善計画提出

業者による選別徹底では、市の委託を受けている松山容器（松山市両吉田町）と南海産業（同市鶴鶴町）に改善を要請。両社とも六～七人で行っていた作業を四人増員。年内をめどに、ライターやガスボンベ、注射針などの危険品・医療廃棄物を選別する磁気選別機の導入を予定している。松山容器はベルトコンベアの速度を落とし選別しやすくした。

八月の市の品質検査では、同協会の品質調査（七月）に比べて両社とも同比率が約10%上昇。松山容器分は同協会のB判定（85～90%未満）、南海産業分はA判定に該当した。禁忌品判定では、松山容器分に危険品が混入していた。

市民への分別徹底では、引き続き町内会やマンション・住民などへの説明会で、分別協力を呼び掛ける。

プラ容器包装ごみ

東温・松前また最低評価

容リ協会 06年度調査 危険物や異物混入

リサイクル業界団体でつくる日本容器包装リサイクル協会（東京）が今年五月に実施した二〇〇六年度のプラスチック製容器包装ごみ品質調査で、東温市と伊予郡松前町が〇五年度に続き、抜本的改善が必要なD判定を受け、改善計画策定を求められていたことが七日分かった。

改善状況 来月から調査

両市町とも計画を六月末までに提出。改善に着手したが、同協会は「八月九月の再調査で総合的改善が見られなければ、来年度の受け入れを拒否する可能性もある」とし、調査はペットボトルを除くプラ製容器包装ごみを対象に、両市町がリサイクルを委託している広

島リサイクルセンター久井工場（広島県三原市）で実施。ごみを圧縮・梱包（こんぼう）した「ベール」の汚れやプラ製容器包装の純度（比率）、危険物混入度合いなどを調べた。東温市はベールの汚れがB。純度は前年度より5・96％改善したものの81・16％でD。ガラスイターなど危険物も混入し、総合評価はDだった。松前町は紙ごみなどの異物混入で純度が5・61％悪化し、75・59％でD。危険物のプラ製かみそりも入っており、総合評価がDとなった。

両市町は、違反ごみを回収しない不燃物用違反シールの活用など改善計画を策定し実施。ごみ分別徹底のため、住民への説明も順次進める。東温市生活環境課は「二年連続のD判定を重く受け止めており、本格的に改善に取り組んでいる」と話している。同協会は〇二年度からベールの品質向上のため同調査を実施し、本年度から調査方法を変更。協会職員らが立ち会った一回目調査でDになれば、計画書の提出を要求。自治体職員が立ち会った再調査で総合的改善がなければ、次年度の受け入れ拒否を検討することにした。

バイオ燃料光と影

サトウキビやアブラヤシの実など植物から作るバイオ燃料が地球温暖化対策として注目され、世界的なブームになっている。原油高騰の影響もあり、各国政府が自動車燃料としての導入に本腰を入れ始めたためだ。ただ日本の場合、燃料を輸入に頼らなければならぬ点では原油と同じ。無秩序な利用拡大が熱帯林破壊など海外で別の環境問題を悪化させるこの懸念も大きくなっている。

「価格競争力もついでかっ作る燃料の総称。成さたし食料、農業とエネ長段階で二酸化炭素（Cルギーの垣根をほらう次U）を吸収するため、燃なるチャレンジという意やしてもCO排出とカウ味でバイオエネルギーはントされない上、枯渇の六変注目される。各省恐れもない。行から二〇〇七年度予算 日本政府は温暖化防止の概算要求が出そつたのために、二〇一〇年に直後の一日、小池百合子 輸送用燃料使用量の0・環境相はこう述べて、ハ6多分に当たる五十万トイオ燃料推進への意気込以（原油換算）のバイオを覓せた。燃料を方ノリンなどに混バイオ燃料はサトウキぜて使う計画だが、普及ビヤアブラヤシの実など度では欧米に大きく後れ生物資源（バイオマス）を取っている。

温暖化対策で各国本腰

これを何とかしようと概算要求には、規格外農産物の利用や、都市部での燃料供給ステーションの整備、税制の特例措置など六省庁で約三百億円の予算が盛り込まれ、実用化に向けた取り組みが本格化してきた。

ただ、今のところ国内自給が見込めるのはわずかな量に限られているため、当面は輸入に頼るしかないのが実情だ。

日本をはじめとする各国での需要増を、東南アジアやブラジルなどの国々は巨大なビジネスチャンスととらえている。

ブラジルは一九七〇年代、石油危機対策としてサトウキビから作ったバイオエタノール普及を推進。現在はガソリンへの20・25多混合が義務化されており、〇四年の生産量は十二百万トに達した。日本にも積極的

食料難・森林破壊恐れも

輸入頼み日本環境配慮必要

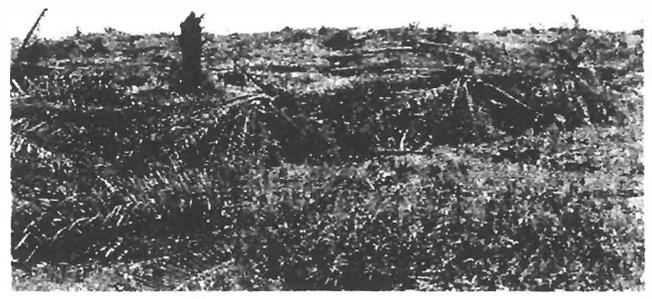
大國になれる。先進國もわれわれの経験から多くを学ばなくてはと胸を張る。

インドネシアやマレーシアでも、アブラヤシのプランテーションを国策として拡大している。

な売り込みを図っており、ルラ大統領は「ブラジルは二十一世紀の燃料



だが、アームの裏で進む環境破壊を心配する声も出始めた。ブラジリアの環境保護団体、セアラ財団のマウンリオ・ガク「プランテーションの開発は森林減少の原因になっているほか、水質汚染や労働者の人権問題も起



アブラヤシのプランテーション開発のために伐採されたインドネシアの熱帯林（地球・人間環境フォーラム提供）

「穀物や砂糖への供給が減り、既に車の燃料が食料かという競争が始まっている」と言っている。米国の環境シンクタンク、アースポリシー研究所のレスター・ブラウン代表は、「世界の砂糖の二割が燃料に転換され、砂糖の価格が急騰している。今後、食料難が深刻化し、政情不安が起る国が出るかもしれない」と指摘している。

「日本はまず、廃棄物など国産品の利用を進めるべきだ。輸入に際しては生産国の環境などに配慮した調達を行う配慮が必要だ」と提言している。

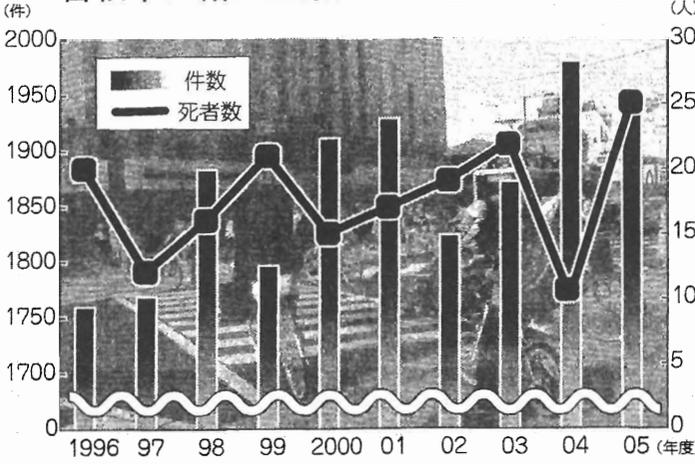
この問題に詳しいバイオマス産業社会ネットワークの泊みゆき理事長は「バイオマスにも持続可能なものと、そうでないものがある」と指摘している。

2006. 7. 27 3000

自転車 交通違反に赤切符

増加する自転車の交通事故に歯止めをかけようと、県警は自転車の酒酔い運転や信号無視など悪質なルール違反者に対し、車のドライバーと同様に交通切符（赤切符）を適用するなど、極的な取り締まりに乗り出す。秋の全国交通安全運動初日の九月二十一日から実施する予定で、八月一日から告知期間に入る。四国では香川県警に次いで二県目。

自転車が絡んだ県内の交通事故の推移



県警

警察庁は四月、今後五年間に歩行者と自転車の交通事故死者数をそれぞれ二割減らすことを重点目標にした指針を策定しており、その一環として取り組む。

自転車は道交法上「軽車両」に分類され、本来、車と同様に酒酔い運転や信号無視をすれば摘発対象となる。しかし、酒酔い運転でさえ「摘発は数年に一回程度（県警交通指導課）で、大半は口頭による警告で済ませていた。

事故防止へ取り締まり強化

重点的に取り締まる違反行為は、酒酔い運転▽信号無視▽二人乗り▽一時不停止▽通行禁止違反▽通行区分違反▽遮断踏切立ち入り▽無灯火の八項目。

例えば、歩行者専用道路を走行し、歩行者に衝突したり、通行を妨がしたりすれば即座に摘発対象。二人乗りや無灯火も警察官の警告に従わなければ対象となる可能性が高い。

違反者は最高で懲役三年

9月から

以下または罰金五十万円が科せられ、未成年者の場合には家庭裁判所に送致される。このため、県警は学校関係者への指導など啓発活動を一層推進する方針。

同課によると、二〇〇五年度に県内で発生した自転車の交通事故は千九百四十八件で十年前に比べて約一割増加。死者数も過去十年で最多の二十五人と、増減を繰り返しながら増加傾向にある。

■極意

- 午後3時までに20分程度
- いかに起きるかを考えて
- ランチ後の眠気は健康のしるし

目覚め 自分の意思で



「一日中ぼーっとしている。生活のリズムがむちゃくちゃなのは、昼寝のせい?」。兵庫県高校2年生(16)の悩みは眠気。

夏休み中もバレーボール部の練習で、午前7時起きた。練習を終えて家に帰るのが午後3時過ぎ。その後、どうしてもなく眠くなり、2時間ほど昼寝をするのが習慣になってしまった。「体はだるいし、机に向かっていても問題を1、2問解くと

もうだめ……。せっかく寝たのに、余計に眠気がひどくなったみたい」

広島大総合科学部の林光緒・助教授(睡眠学)は「『よくない昼寝』の典型ですね」。問題は、昼寝の時間帯と長さ、という。

通常、人の眠気は半日周期で、大人でも午後2時ごろに眠気のピークがやってくる。昼食後に昼寝をするスペインの「シエスタ」や英国のアフタヌーンティーはこの習性を生かした文化だという。午後2時の眠気

無理な昼寝、ストレスで逆効果

は、いわば「健康の証」。一方、午前中や夕方に眠くなるのは、生活リズムが乱れている証。特に、「黄信号」なのだ。

特に、遅い時間に昼寝すると、夜の寝付きが悪くなったり、熟睡できなくなったりと、悪循環を招く。そのため、午後3時以降は控えるべきだという。

また、20〜30分以上の昼寝も禁物。人は眠り始めるうとうと状態(段階1)から約5〜10分で、寝息を立て始める(段階2)。20分を過ぎた頃から、声をかけられても反応しにくくなり(段階3)、30分を過ぎると最も深い睡眠(段階4)になる。段階3になると眠り続けようとする力が働き、寝覚めが悪くなったり、かえって疲れを感じたりする。無理に起きようとすると、心拍数や血圧が急激に上がり、体への負担も大きいという。

寄り道の楽しみ



私は小学生の頃、下校しながら初めての道を通り、その道がどこに繋がっているのかちょっとした冒険を楽しんでいたものでした。とてもワクワクした記憶があります。

しかし、最近の小さい子を狙った犯罪の数々は、小学生から下校時の楽しみを奪っています。学校から家まで真っ直ぐに帰る、というのが今の学校指導です。東温市では市内二つの小学校で、児童一人一人の登下校をチェックするシステムが試験的に導入されました。子供の自由を奪い、子供を管理し過ぎだと反対出来ない危ない社会になっていることを、子供にとって安全な社会ではないことを、このことは物語っています。

私はこの夏、九州への里帰りの途中、寄り道をしながらか帰りました。大分から長崎まで、いつもなら高速道路をひたすら走り続けるのですが、今年は日田から一般道に降りて福岡方面へ行ってみました。

山道を奥へ進むと、いくつもの集落に出会います。道路標識を見ながら、道を間違えていないかと気にしながら、次々に出会う風景を面白がっていました。

山道を走っているから、どこかに蕎麦屋がないだろうかと話していたら…ありました。二本の旗が、店を案内しています。少し脇道に入った所で、見過ごしそうな蕎麦屋でした。民家を改築して造られていた蕎麦屋です。メニューは蕎麦と鶏飯だけです。+割蕎麦と鶏飯でお腹も気持ちも満腹になりました。

気持ちも新に、さらに福岡目指して道を進むと温泉の表示があります。【原鶴温泉】温泉大好きな私ですが、これは我慢しました。

またしばらく行くと道の両脇にたくさんの窯元が連なっています。道の駅があり、入ってみると小石原焼という陶器でした。おもしろい模様でしたので、記念にコーヒーカップを買いました。

目的地の福岡インターまで三時間半の道のりでしたが、初めて通る道は、思いがけない喜びを私にプレゼントしてくれました。いつもの道からちょっとはずれて、初めての道を通ると面白い発見があります。私は、小学生の頃に感じた楽しさを思い出していました。

ワクワクする体験は子供の間にはたくさんできるといいですね。大人になってもいい思い出として心に残ると思います。小学生が歩く学校への登下校道は、一番手近な発見の道だと思います。

私は東温市が、日本の社会が、子供達にとって安全な社会をとり戻すことを願っています。(R・D)

雑 感

台風一過、久々に抜けるような青空が広がりました。最近は局地的ともゲリラ的とも言われる大荒れの天候に驚かされてばかりです。

人間の心まで壊れてしまったような、事件や事故が後を絶ちません。家庭も学校もその機能が低下してしまっている様です。核家族、女性の社会進出等、様々な理由で家庭に大人がいなくなってしまう様です。そして、大人も子供も何故か誰もが忙しくて、家族でありながら、個々別々の時を過ごすことも珍しいことではなくなっています。女性の社会進出は大切なことです。応援したいと思います。でも、誰か子供に寄り添う大人がいなくては、と思うのは私だけでしょうか。人間関係は、その時間の長さより、内容の濃さが大切、ともいいます。それでも、向きあう時間があまりにも短い様に思うのです。昔から、“子供は親の背中を見て育つ”といえます。職場が住居と離れていることが多い現在、子供にとって見るべき背中が無いのです。かまってもらえなくても、遊びに連れて行ってもらえなくても、忙しく働いている親を間近に見ることができれば、子供なりに納得もできるでしょうが、離れた職場に出かける親から“仕事だから”と説明されても、ただ淋しさだけを抱え込んでしまうことは容易に想像できます。家庭のすべての大人が職を持つことを是とする政策を国が執っている現状では、学校の間を“家庭”としての機能も担える場にしないのはならないのかもしれない。その為には人材を増やし、質も向上させなくてはなりません。朝食給食や食育を実施している学校も増えてきました。もちろん大切なことですが、それ以前に、教師一人一人に子供達の“親”としての自覚を持って欲しいのです。親としての自覚があれば、秋田でおきた、我娘と隣家の男児を殺害した女性の高校時代、寄せ書きに人格を全否定する言葉を掲載させてしまう様な教師は存在しなくなる筈です。それでも、どんなに学校が“家庭”を担っても、誕生から死へ繋がる命の重みを実感として受け止めることは難しいことでしょう。

大家族で暮らしていた頃はあたりまえに、自然に体感できたことが今はなかなか難しくなっているのです。シュレッダーによる傷ましい事故も、親もまた被害者であるという観点から、メーカーだけを非難する論調がほとんどですが、シュレッダーは、そもそも刃物なのです。もっと子供に目を注いでいれば防げた事故だとも思います。

子供達が“愛されている”“私は大切な存在だ”と実感できる環境作りの為、大人達はもっともっと真剣にならなくては、と思います。愛された子供達が大人になった時、感性豊かな、真に成熟した社会が生まれると信じます。

私が最近知った、あれこれ

- ☆ 元、米副大統領ゴア氏が、環境破壊はテロよりも恐い、と述べていたこと
- ☆ 2001. 9. 11、同時多発テロで倒壊したビル周辺の粉塵に含まれていた、アスベストやダイオキシンによる健康被害に今なお苦しむ人が多いということ。当時周辺の空気は清浄とした政府見解は今も変わらず救済措置も遅れているということ
- ☆ レバノンで空爆や自爆テロによる振動で貴重な遺跡の破損が進んでいること
- ☆ 一刻も早く浜岡原発を止めてください、直下で東海大地震がうごめいています。という訴え
- ☆ マラウイで“愛しているよ”という自作のCDでエイズ撲滅を訴えている日本からの海外青年協力隊の青年のこと

- ☆ アフガニスタンで現地の人たちと共に現地での持続可能な方法で井戸を掘り続けている日本人医師のこと
- ☆ 命に関する重すぎる記事 2 つ……終末期医療の中自らの最期を決定した作家、飼猫が産んだ仔猫を殺す決断をした作家
- ☆ ワンマン宰相のイメージが強かった吉田茂は第二次世界大戦中、一貫して戦争に反対し、投獄されていたという事実
- ☆ エジプトの歴代の王の中で私にとって最も馴染み深いツタンカーメン王は、宗教上の理由で王の系譜から削除されていたということ
- ☆ スペインでのファッションショーでモデルの体型が摂食障害へ影響を与えるという観点でBMI 18 以下のモデルは出場できないとのこと

近くの学校から、運動会の練習の音楽が聞こえてきます。子供の頃から運動がまるで駄目な私は、今もその音楽を聞くと軽い腹痛を覚えます。切なくて懐かしい思い出です。 (K.O)



10月例会予定

10月25日(水) 9:00～
南予方面へ出かけてみる予定です。

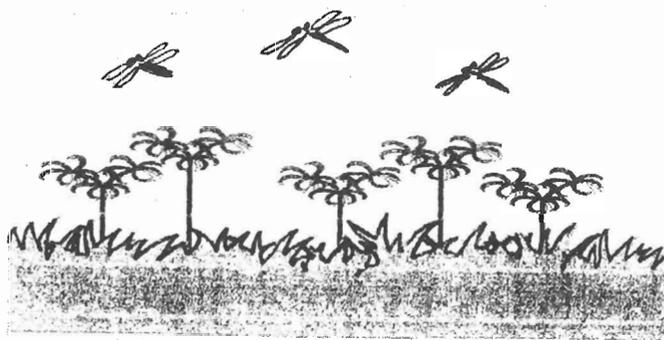


編集後記

あぜ道に彼岸花が満開です。

今回も、会員からたくさんの原稿や新聞切り抜き記事が届きました。ありがとうございました。

現在、小泉政権から安倍政権へ移り変わろうとしている中、この編集をしています。時代には、“ゆれ”のようなものがあるような気がします。小泉政権の功罪はいろいろといわれていますが、前政権の“ゆりかえし”の波がくるでしょう。歴史は繰り返しながら、スパイラル状に続いていくといったことをある歴史家がいっていました。目先の流れに翻弄されることなく、足元と未来、ともに見つめて歩んでいきたいものです。 (E.K)



くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年
振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026
問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956
E-mail: kt-hayashi@nifty.com